

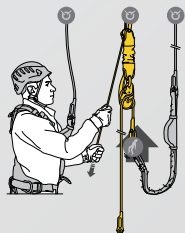
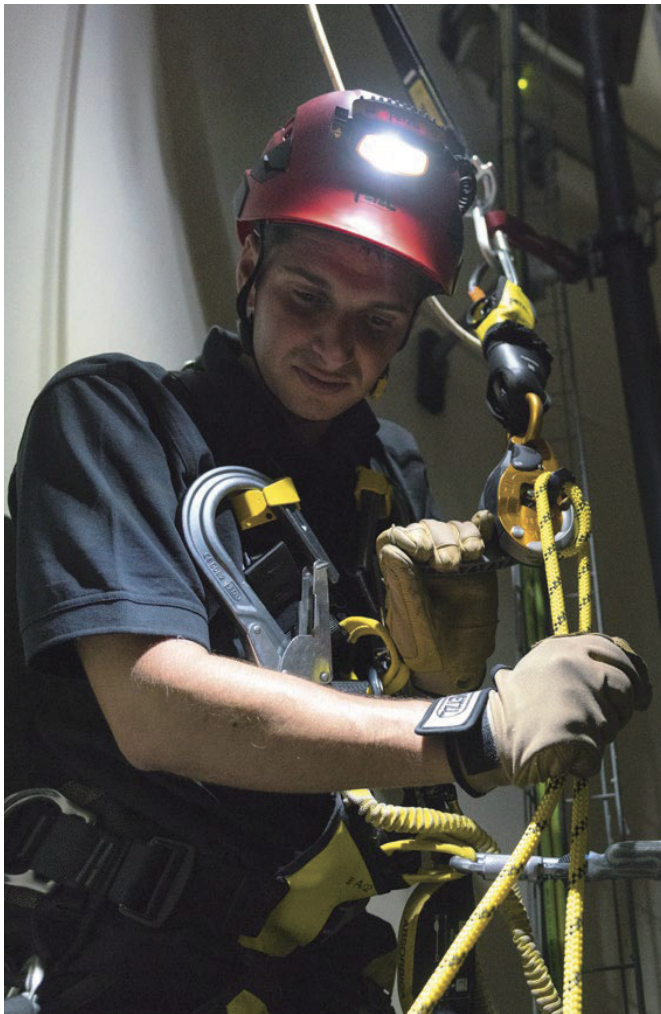
作業者が負傷や意識を失う等の理由で身動きが取れない場合、作業チームは迅速に要救助者の安全を確保する必要があります。

作業の例:

- ・作業チームのメンバーが要救助者にアクセスし、要救助者のシステムを解除した後に下降(介添えなし)
- ・作業チームのメンバーが要救助者にアクセスし、要救助者のシステムを解除した後に下降(介添えあり)
- ・予めレスキューシステムがセットされているフォールアラスト用システムに要救助者が吊り下がっているため、救助者によるアクセスは不要

技術の特徴:

- ・要救助者に付き添わない下降は、多くの場合、予め用意されたレスキューキットを使用します
- ・要救助者に付き添う下降は高度なロープアクセス技術が求められ、適切なトレーニングが必要となります
- ・どのようなケース(特に要救助者が意識を失っている場合)においても、起立失調(サスペンショントラウマ)につながるリスクを抑えるため、可能な限り迅速に行えるレスキュー手段が必要となります



JAG RESCUE KIT

必要な時にすぐに使えるレスキューキット JAG RESCUE KIT は、要救助者のピックオフから下降までを簡単に行うことができます。このキットには、ホーリングキット JAG SYSTEM、ゲート付リング RING OPEN、下降器 I'D EVAC、アンカーストラップ CONNEXION FIXE 150 cm、自立型バグ BUCKET、両末端が縫製処理された 11 mm ロープ AXIS が含まれます。

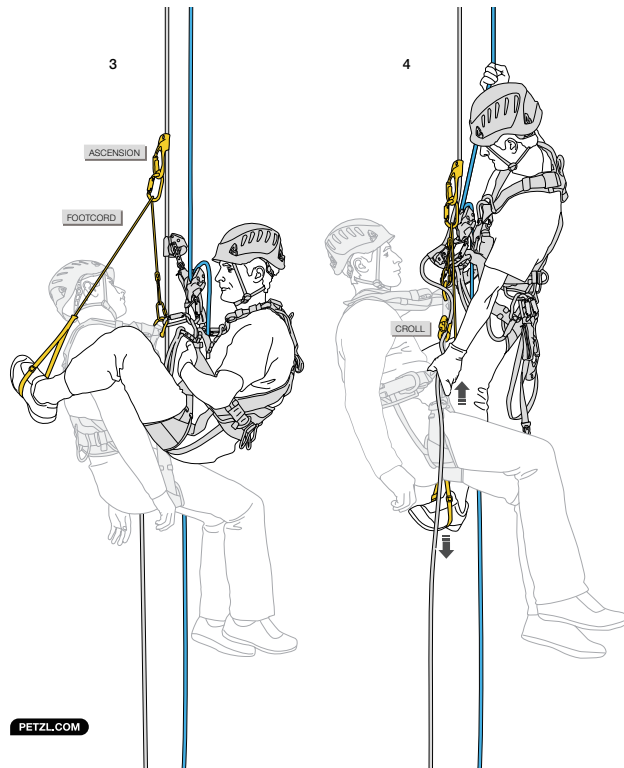
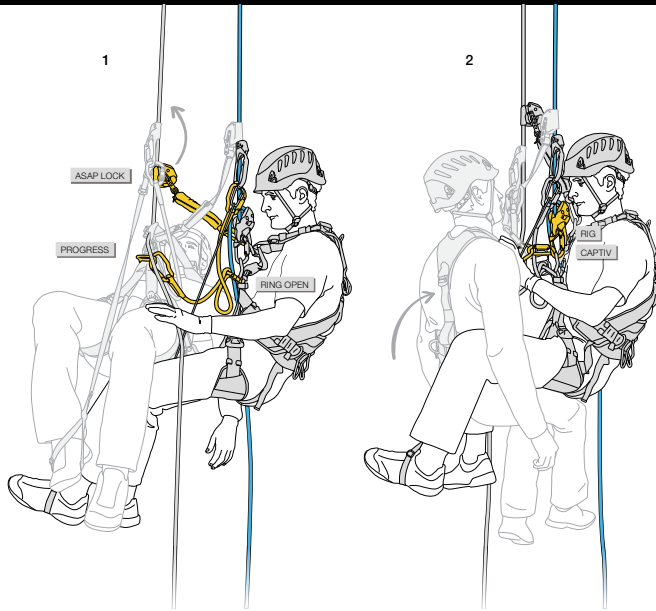


CROLL でぶら下がっている要救助者の救出

現場の作業者が救助者となり、個人装備を使用して下からアクセスして救助します。救助活動を開始する前に、救助者は必ずリスク分析をし、また要救助者が使用しているロープの状態に問題がないことを確認する必要があります。カウンターウエイトシステムを使用して、要救助者の荷重を下降器に移します。

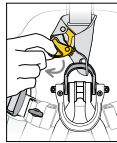
救助者は、要救助者のバックアップ用ロープを使って登ります。

1. 救助者は RIG に体重をかけ、ランヤードを要救助者に連結してから自分の ASAP を要救助者の上側に移動します
2. 救助者は要救助者ともう 1 箇所を連結します。そうすることにより、要救助者が付けている不要な器具を外すことができます

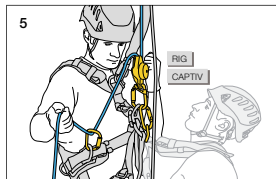


3. 救助者は、要救助者のロープにロープクランプ ASCENSION を取り付け、自分のフットループでカウンターウエイトシステムをセットします

4. フットループでバランスを保ち、CROLL に通っているロープがスライドしないようにしながら、要救助者を持ち上げます。CROLL を解除し、RIG のロープをできるだけたぐります



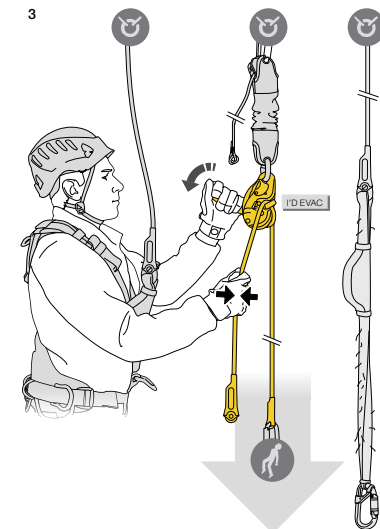
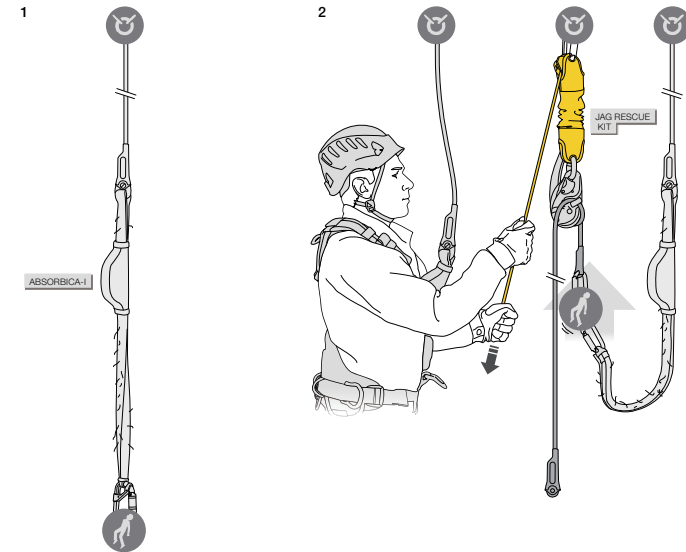
5. 救助者は RIG に体重をかけ、ASCENSION を回収します。ブレーキカラビナを取り付け、要救助者を伴って地面まで下降します




引き上げと下降の切り替えが可能なレスキューキット

• 救助者が付き添わないレスキュー (途中で障害物がなく、要救助者の容態も安定している場合):

1. 要救助者は自分のランヤードで吊り下がっています。墜落によりエネルギーアブソーバーの縫製は裂けています
2. ホーリング (要救助者のロープを解除できるようにします)
3. 要救助者を安全な場所まで降ろします



 JAG RESCUE KIT を使用して要救助者を救助する方法については、www.petzl.com の技術情報をご参照ください。

PETZL.COM